

お便り

POST

◆私の「カルチャー・いんふお」◆

本と映画をご紹介します。

歌人、河野裕子は2010年に64歳で亡くなるまで多くの歌集や随筆を発表しています。「お母さんあなたはわたしのお母さん、裕ちゃんごはんよと呼ぶこゑがする」。自分の母のことを詠みながら、命の終わりが見えている母としての自身のことも思ったのでしょ。病院での緩和ケアではなく自宅で介護を選び退院し、主治医と看護師が「昔」のように自宅に訪問してくれることを喜びます。同じく歌人である夫 永田和宏、息子、娘がそばにいて、書けなくなった最後は口述筆記をしました。「手をのべてあなたとあなたに触れたときに息が足りないこの世の息が」と死の前日にも作歌し、「われは忘れず」と言い残し息をひきとりました。『家族の歌』（2011年 産経新聞出版）は歌人である家族全員が順番に書いた連載をまとめた作品です。歌集『葦舟』（2009年 角川学芸出版）で私の故郷、兵庫県小野市の詩歌文学賞を受賞しています。

映画『痛くない死に方』（2021年 高橋伴明監督）では、同名の原作の著者 長尾和宏医師の自宅での看取りについての考えをはっきり描いています。河野裕子と同じく、自宅で介護を受ける本多彰は、柄本佑扮する医師 河田仁の訪問診療を受けます。河田はLiving Willを書くことにより患者の望む最期を尊重すると話し、家で看取る家族のために最期の時が近づいた兆候をあらかじめ説明します。点滴で輸液を入れ過ぎると「溺れてしまい」、枯れる結果の死を「穏やかな死」と呼んで。「痛みなく悔いなき最期平穏死」は高橋監督が終末川柳と名付け、患者の本多彰に映画の中で詠ませた作品です。本多は河田医師と共に縁側で花火を見ながら大好きなお酒の杯を傾けます。「死に水も人目盗んで酒にして」。(AK)

◆研究論文を募集します◆ ピアレビュー(査読)の上、掲載します。

- 【テーマ】 子ども、保育、幼児教育に関するもの。
 - 【文字数等】 400字詰め原稿用紙 35枚程度 (写真・図表、文献、注を含む)。
本文はワードで作成。
 - 【締め切り】 随時募集します。投稿予定の方は本誌編集委員会まで。
- Mail:youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学社会人講座(文科省BP認定) 「保育・子育て支援ラーニングプログラム」 2021年度 後学期(10月開講) 受講生募集

夜間や週末開講のお茶大 ECCELL 社会人プログラムが2021年度後学期の募集を行います。お茶大こども園と大学・大学院が連携し、保育実践者や一般社会人を対象とした学びの場を、オンラインにより開講します。*男性も受講可能です。



Brush up Program
for professional

- 【開講科目】(2021年10月～2022年1月)
 - ・「保育人間学演習」(2単位、大学院科目、木曜 18:20～19:50) 担当: 浜口順子
 - ・「保育マネジメント論演習」(2単位、大学院科目、金曜 18:20～19:50) 担当: 宮里暁美
- 【出願期間】2021(令和3)年7月15～22日
- 【Eメール】nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp
詳しくは大学HPをご覧ください。

このほか、公開講座型の「乳幼児の世界Ⅰ」や「からだ・表現ワークショップ」の開講も予定されています。9月以降、上記アドレスまでメールでお問い合わせください。